

岩手教区報

第347号
 立教184年11月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3-40
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597



『岩手教区小史2』発行 岩手教区小史編集委員長 崎山道範

10月26日、『岩手教区小史2』が発行の日を迎えました。令和1年9月17日、第1回編集委員会を持ってから2年余りの編集期間を経ての発行に、深い感慨を覚えるものです。

その第1回委員会の席上、教区長先生より次のようなお話がありました。

歴史を忘れた国は滅亡すると言われる。それぞれが、またその土地を持ったいんねんによって歴史が刻まれるが、それを学ぶことで、その先の指針を見据えることにつながる。明治から昭和にかけての三陸津波など、自然災害を節と受け止めて通られた岩手の先人達の姿が、東日本大震災の時、大変心強く感じた。『岩手教区小史』も発行してから来年で10年となるので、この10年の歩みをまとめておきたい。特に、震災の事は今整理しておく必要がある。

このお話を基に、企画構成に取り組みました。第1部を年譜とし、前回のスタイルを踏襲して、10年間の教区活動を記載しました。第2部は東日本大震災の救援活動記録。第3部は資料として、この10年間の役員や各会の歴代代表者を記載しました。1部、2部は、写真をなるべく載せるようにしました。なお今回、巻

頭のグラビアはカラーにしました。第2部のことに少し触れます。ここは、まず資料集めから始めました。本部災害救援などに資料借用を願い出、また教区内外に情報提供を呼びかけ、そして委員個人々の記録と記憶をすり合わせました。また、当時、県社協を初め行政関係機関と折衝されて、貴重な協力を得られた元主事の及川實先生に多くのことを聞かせて頂きました。これらの資料を元に編集を進めました。その中で実に沢山の方の真実を学びました。この道の信仰の尊さをしみじみ感じた次第です。もし、新たな情報、また記載ミスなどがありましたら、ご叱正下さるようお願い致します。とにかく、この2年間の編集活動は、進んでは戻り、また進んでは訂正の繰り返しでしたが、その中たゆむことなく編集を進めてこられたのは、教区長先生のご指導のもと、しぶとさとこだわりを併せ持つ編集委員の熱き心の一手一つの合力によるものと思います。こうしている今も、時は刻まれていきます。過去の歴史を学ぶとともに、今を歩む私たちの道が、確かなものであることを確認する意味でも、記録によって自分たちの歩みを顧みることの大切さも感じていきます。

信仰随想
法楽
 前岩手教区長
中田俊次

「コロナウイルスと肺炎」

新型コロナウイルスの感染者は劇的に減少している。とはいえ、流行の終息は未だ見えておらず、地域によっては感染の第六波を予測し、決して油断はならないと、感染終息に向け医療体制の更なる強化、感染対策の徹底をしているところもある。感染を食い止めるにはワクチンが唯一の頼みのように思われるが、ワクチン一発ですべてが解決するというものではない。しかし、いずれウイルスは弱毒化して風邪のウイルスのようになっていくと言われる。新型コロナの危機が過ぎて、いざれ新たな病原体によるパンデミック(世界的大流行)が起きないとも限らないとみる専門家もいる。従って、我々は科学的、医学的知見を軽視することとはできないが、忘れてならないことは、第一に、神様によって生かされている命

の尊さを心に治め、人と人、他者と他者、世界中の人々が助け合い、連携、協調していく優しさの生き方が求められねばならない。

さて、コロナウイルスによって犯される臓器は肺であり、殆どは肺炎となる。肺は赤ちゃんの誕生と同時にたらきを始め、呼吸を開始する。以来、寸秒の休みなく働き続け生命を守っている。呼吸とは、肺で空気中より吸った酸素と血液中に溜まっている炭酸ガスを交換し、体外に出す働きの事である。酸素と炭酸ガスを巧みに交換する場所を肺胞と言ひ、両肺にぶどうのように連なっている肺胞の数は3億から4億もあり、内面積を累積すると約100平方メートルにも及ぶ。体の表面積の約50倍に当たり驚嘆に値するばかりである。肺胞は、この広い表面積を利用し空気中の酸素を十分に取り入れ、炭酸ガスとの交換作業を実に巧妙に且つ迅速に行っている。

思えば親神様の人間創造の時より、いつ如何なる場合でも自然の中で呼吸ができるように完璧な設計により造られている。私達は、かかるご守護により、昨日も今日も長の年月、自由自在に生かされている。

実に人間の知恵力の及ぶところではない。有難い極みである。コロナ禍の今日、

親神様の十全の働きに、改めてお礼申し上げ、これまで恩報じの足らなかつた人間のおごりをお詫び申し上げ、一日も早いコロナの感染終息を祈念申し上げますものである。

「みおしえ学習会」開催予定(11月分)

- 一関 4日(木) 磐井分教会 13時
〔ファシリテーター 滝浦 剛〕
- 三陸 14日(日) 花宮古分教会 13時
〔ファシリテーター 工藤 裕樹〕
- 奥州 28日(日) 岩手沢分教会 10時
〔ファシリテーター 桐山 太司〕

行事予定 (11月分)

- 2日 役員会議(10時)
- 全教一斉ひのきしんデー会議
- 12日 災害隊支部幹部研修会(12時)
- 13日 婦人会例会(10時30分)
- 青年会例会(18時)
- 学生担当委員会例会 on line(19時)
- 14日 奥州支部 婦人会の集い
- 一関・県南支部 婦人会の集い
- 17日 花巻支部 婦人会の集い
- 21日 九戸支部 婦人会の集い
- 女子青年例会(10時)
- 28日 教職員の集い役員会(10時)
- 30日 少年会例会 on line(19時)



10月14日から15日にかけて、教務支庁中庭の剪定ひのきしんを実施。災救隊スタッフを中心に13人が参加した。この日は、慣れた手つきで剪定ばさみを扱ったり電動工具を使うなどして、作業は手際よく進められ、中庭の木々はみるみる綺麗に整えられた。作業は1日で大方を終了。翌15日、松の仕上げを含め、2人が10時まで作業を行った。



災救隊

「庭木剪定ひのきしん」

実施さる

道の教職員の集い

「第14回陽気フォーラム」

開催報告



西村光喜 講師

岩手教区道の教職員の集い(教区婦人会共催)は去る10月17日(日)、教務支庁を会場に「第14回陽気フォーラム」を開催、オンライン参加4人を含む38人が受講した。

今回は「イライラしない子育て」のテーマのもと、講師に西村光喜先生(横堀町分教会長・秋田陽気会代表)を迎え、質疑応答と合わせて約3時間にわたってお話し頂いた。

西村講師は、虐待児童ゼロを目標に日頃より活動をされ、その上で必要な「イライラしない子育て」を提唱されている。第1講では、子育てには愛情、情熱、忍耐が必要であり、加えて子育てのコツを学ぶことが大切と話された。続く第2講では、自己肯定感を形成するために褒めて育てるといった子育てのコツを具体的な例を通して説明された。温かくユニ-

クな話し方に終始され、倍の時間が欲しかったと思う程の内容であった。来年も陽気フォーラムを開催する予定です。是非都合をつけてご参加下さい。

○会場の様子



○オンライン配信の様子



青年会

「岩手っ子だよ! 全員集合!」 実施報告

教区青年会では、10月9日(土)「岩手っ子だよ! 全員集合!」を実施、5人が参加した。

当日、午後9時半よりオンライン配信を開始。はじめに参加者同士の自己紹介、岩手に関するクイズを行い、慣れないインターネット環境下での緊張をほぐした。続いてのサイコロトークキングでは、お互いの現状報告や天理の良いところ、お道の素晴らしさなどのテーマで、2時間の話し合いを行った。天理からの参加者もあり、コロナ禍でも行事を行う大切さが得られた。



昨年、松やモミジが枯れかかっていたが、栄養剤を注入したことにより、だいぶ持ち直してきている。今年も夏の暑さのせい、全体的に枝葉が少ないので、刈り込みを浅めにした。



「支部幹部研修会」

【11月12日】

災救隊は、左記の要項にて教務支庁内外の清掃を中心に、支部幹部研修会を実施します。各支部より、班長はじめ数名の参加を募っています。

記

日時 11月12日(金) 12時集合
御供 1,000円
内容 教務支庁内外の清掃
※隊服、マスク着用にて参加してください。

布教所開設

陸中布教所

〔沼津大・水澤分・奥州支部〕
右布教所は、4月14日付で開設されました。住所、所長は次の通りです。

◇住所 〒02914502

◇所長 金ヶ崎町三ヶ尻川口田39 後藤順哉

学生担当委員会よりお知らせ

今月28日に予定しておりました「第38回教区学生会総会」について、学生会と学生担当委員会との相談により、総会の開催は見合わせることに致しました。また高校生の集い「まなびば」についても、従来の内容に近いプログラムでの開催は難しいとの判断から、今年度の開催は見合わせることに致しました。そしてこれらに代わる行事として、令和4年2月頃に、仮称「岩手教区学生会の集い」を計画しています。詳細については改めてご案内させていただきますので、ご理解の程よろしくお申し込み申し上げます。